

学会長あいさつ



第 74 回日本医学検査学会 TOTTORI IN OSAKA

+ α

～臨床に貢献できる検査技師とは～



第 74 回日本医学検査学会

学会長 湯田 範規

(労働者健康安全機構 山陰労災病院)

第 74 回日本医学検査学会を中四国支部の代表として一般社団法人鳥取県臨床検査技師会（以下、鳥臨技）が担当いたします。開催させていただくにあたり、担当県を代表してご挨拶申し上げます。

学会テーマは「+ α～臨床に貢献できる検査技師とは～」といたしました。2021 年 5 月 28 日に医師の働き方改革を進めるための法律が公布され、2024 年 4 月より順次施行されています。その中で臨床検査技師はタスクシフトをするべく厚生労働大臣指定研修会を受講し業務の範囲を拡大してきました。地域医療における病院の役割・規模によってもタスクシフトできる業務は変わります。今回の企画は医師のタスクシフト、また技術的に臨床に近いところをサポートすることも含め、いろいろな場面で活躍できる臨床検査技師をイメージして企画いたしました。

特別講演Ⅰでは「高齢化先進県から認知症の情報発信」と題して認知症に関わる検査技師への期待をお話いただきます。少子高齢化社会の中で検査技師の活躍の場になると考えています。また、特別講演Ⅱでは「不祥事防止のツボー当事者視点に立った不祥事防止策とは?」と題してリスクマネジメントを当事者の視点で検証された事例を交えて講演いただきます。リスクマネジメントは管理者や上司が行うものと思われがちですが、当事者の視点ですのでスタッフの誰もが考えなければならない事についてお示しいただけるものと考えています。

特別プログラムは、AI に関する特別セッション 2、教育講演 8、シンポジウム 12、日臨技企画 7、国際フォーラム 2、大臨技企画 1、石臨技鳥臨技合同企画 1、関節、心臓、頸動脈領域の超音波検査ハンズオンセミナーを行います。また、全国から一般演題に 506 演題の登録をいただき皆さまとの交流の場として設けることが出来ました。

会場は、大阪府大阪市北区中之島の大阪国際会議場（グランキューブ大阪）を使用します。大きな会場ですので発表会場、展示会場を一つにまとめることが可能です。会場を一つにすることにより様々な企画にタイムロスなくご参加いただき発表会場、展示会場を行き来される場合の負担を軽減します。また、展示会場や休憩スペースも広く準備して、会員、賛助会員様ともに交流していただけるよう工夫してまいります。そして、日本各地から大阪へのアクセスの良さを最大限に生かしながら、「外は大阪、中は鳥取」をコンセプトに会場内、懇親会会場では鳥取色を随所に出していこうと計画しています。

全国から多くの会員の皆様に「TOTTORI IN OSAKA」でお目にかかれることを鳥臨技会員一同楽しみにしております。